



	③	<b>【全学COC+研修会の開催】</b>  9月、3月 本学の全教職員を対象とした本事業の実施に関するファカルティ・ディベロップメント(FD)として、全学COC+研修会を(2回)開催する。	b	<p>第1回を平成29年11月30日に開催し、68名の参加があった。            第2回を平成30年2月19日に開催し、41名の参加があった(参加校関係者を含む)。            FDSO研修として実施し、いずれも地域志向教育の方法論について内容とした。第1回は本学で初めて実施した「地域課題演習」をテーマとし、実施結果の詳細な分析を紹介するとともに、6つのテーマの担当教員から講義や現地活動の進め方や方法、その成果と課題を報告し、共有した。第2回は参加校である広島経済大学の、全国的にも先駆的な「興動館教育プログラム」をテーマとし、社会プロジェクトに学生が自主的に取り組み、社会人基礎力やアクティブラーニングに成果を挙げている仕組みや教育方法を具体的に学んだ(講師は広島経済大学濱田敏彦教授)。            研修会に出席できなかった教職員のため、研修会の内容を学内ウェブサイト動画で公開し、各自でネット受講ができる体制を整えた。</p> <p>開催時期を除けば、予定どおり実施したことから、「b」と評価した。</p>	
	④	<b>【インターンシップの実施】</b>  8月 COC+参加企業・自治体へのインターンシップを実施	a	<p>事業協働機関への働きかけを強化し、本学におけるインターンシップの受け入れ企業・団体数が、平成28年度の70機関に比べ、平成29年度は163機関に増加した。参加学生数についても、平成28年度の50名から、平成29年度は58名に増加した。</p> <p>受け入れ企業・団体数、参加学生ともに増加したことから、「a」と評価した。</p>	
	⑤	<b>【新たなインターンシップ事業の検討】</b>  4月～12月 新たに地域企業を知る機会を増やすための取組等について検討し、平成30年度実施の準備を行う。	a	<p>平成28年度から事業協働機関である中国経済連合会の人材育成専門部会において、企業関係者と地元企業におけるインターンシップを活用した学生の地元定着意識の醸成を図る方策について検討を進めている。平成29年度にその具体化として、企業経営者と学生が懇談を通じて働く意義を考える企業訪問事業を開始した。受け入れ企業17社に、6大学から83名の参加があった。その結果を踏まえ平成30年度に向け参加校や学生を拡大するための協議を行った。</p> <p>また、本学で新たに実施した「地元企業経営者パネル討論会」において、参加学生と企業経営者との活発な意見交換があり、地域での企業経営の意義と課題について理解を深めた。企業経営者は4名を招き、参加した学生・教員は73名であった。</p> <p>検討した事業を前倒しで実施し、インターンシップの強化に取り組んだことから、「a」と評価した。</p>	
	⑥	<b>【寄付講座の実施】</b>  4月～3月 新たな寄付講座を実施する。	a	<p>広島が世界に誇れるモノづくりの拠点となる人材育成を目指し、「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」を開講し、学生18名が履修した(最終プレゼンテーションまで進んだ学生は12名)。            これは、芸術学部を持つ本学ならではの取り組みであり、学生は専攻を超えて実践的な学びや制作に臨んだ。学生は地元メーカーのトップデザイナーからの指導を受け、ものづくりの精神やグローバルな視野、車のデザインの現場学習などにより創造・表現の方法論を学んだ。            ゼミの最終日となった平成29年9月8日、本学芸術資料館において、学生が成果作品についてプレゼンテーションを行い、アドバイザーボードである前田育男客員教授(マツダ(株)常務執行役員)から講評を受けた。</p> <p>地域を代表する企業と協働し、本学の特長を活かした寄付講座により、学生の実践力を育成し充実した成果を挙げたことから、「a」と評価した。</p>	

H29 年度実施計画		公立大学法人広島市立大学の自己評価		外部評価委員会の評価
		記号	評価理由等	記号 (S A B C D)
取組 2 観光関連データベースの構築と活用	事項 ⑦	<b>【データベースの試験的な活用】</b>  4月～3月 平成 28 年度に引き続き、参加自治体等の協力を得ながら、観光地施設等の観光関連データを入力。合わせて観光関連データベースを「観光情報学」の講義・実習等で活用する。	a  SNS 情報を中心に観光関連データを収集し、平成 29 年度中に約 40 万件追加登録した。平成 29 年度末現在で総数約 60 万件の観光関連データの登録が完了している。 登録済みの観光関連データの利活用について、平成 29 年度科目の地域課題演習や観光情報学での演習素材として試用を行い、運用上の課題の洗出しを実施した。平成 30 年度以降の利用改善や素材収集に生かすための準備を行った。 また、実用的な調査として、しまなみ海道での観光サイクリストの行動情報の収集や岩国市での観光客の動向調査を実施し、データベースに登録した。  約 40 万件を追加登録し、計画にはなかった尾道市や岩国市での実用的な調査を行ったことから、「a」と評価した。	取組 2 ⑦・⑧について  <b>B</b>  (3.5)
	⑧	<b>【データの閲覧開始】</b>  1月 参加校・企業・自治体に対するデータベースの閲覧を開始する。	c  学内での活用（地域課題演習・観光情報学等）を通じて運用案を検討し、平成 30 年度公開に向けて、利用する事業協働機関（自治体・企業・参加大学）へのマニュアルやセキュリティ規定の試作や、事業協働機関向けのユーザ ID/Pass の配布準備を行った。  平成 29 年度中の公開には至らなかったことから、「c」と評価した。	

H29 年度実施計画		公立大学法人広島市立大学の自己評価		外部評価委員会の評価
		記号	評価理由等	記号 (SABCD)
取組 3 観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進	⑨	【COC+特定研究等の実施】  4月～3月 学内特定研究費（大学資金）「COC+特定研究」を公募し研究を実施するとともに、学内事業(大学資金)「社会連携プロジェクト」において「COC+関連プロジェクト」を公募しプロジェクトを実施する。	a  「COC+特定研究」について2件の研究テーマを採択し、「社会連携プロジェクト」について5件の事業を採択し、また、学生による地域貢献事業「市大生チャレンジ事業」を2件実施した。 「COC+特定研究」は、「アートプロジェクトの実施と人材育成の基盤研究」、「瀬戸内海のインバウンドを目指す地域活性化プロジェクト」。「社会連携プロジェクト」は、「尾道市立大学と連携した空き家再生事業」、「しまなみ観光サイクリストの行動情報収集」など。「市大生チャレンジ事業」は、「学生を対象としたビジネスコンテスト」、「ヒロシマピースキャンプ」。実施されたテーマはいずれも学生の地域での活動を伴ったものとなっている。  本学の自己資金により平成27年度に創設した制度の趣旨が浸透し、年度を迫るごとに意欲的な研究や社会連携活動を進めてきていることから、「a」と評価した。	取組 3 ⑨～⑪について           <b>A</b> <b>(4.0)</b>
	⑩	【サテライトハウス宮島の運用】  4月～3月 平成28年度に廿日市市宮島に開設した広島市立大学COC+宮島教育研究施設（通称「サテライトハウス宮島」）を拠点とした活動と管理運営を行う。	a  廿日市市宮島町の歴史のある町家建築を一部改装し、本学と参加校の学生・教員が宮島での教育研究活動を行う施設として「広島市立大学COC+宮島教育研究施設(通称、サテライトハウス宮島)」を平成28年10月に開設して施設の整備を行い、そのお披露目を兼ねた芸術展示を平成29年6月に開催し、本格的な運用を開始した。 平成29年度の主な活用状況は次のとおりとなった。 芸術展示(開設記念展など)4回、芸術学部の現地演習2回、外国人観光客向けのイベント2回、市民向け講座(広島工業大学土曜講座)1回、観光に関する学生の研究・活動発表会現地視察1回、日本都市計画学会視察1回を実施した。その他、大学の地域活動の事例としてNHKのテレビ番組により全国に紹介された。  本学の芸術展示や演習にとどまらず、参加校や学会での活用、観光客や地域向け行事など多彩な運営を行ったことから、「a」と評価した。	
	⑪	【アートプロジェクトの実施】  4月～3月 アートプロジェクトを広島市中心部と宮島に加えて、新たに尾道市・安芸太田町・北広島町において実施する。	a  統一テーマを「広島ニュートラベル」とし、瀬戸内海や都市部、中山間地の各地域において、アート活動により人をいざない交流を進めることをコンセプトに、芸術学部の全10専攻の学生・教員約140名が参加し、参加大学や地域と協働しながら、作品制作・展示・ワークショップ、地域活動等を実施した。新たな地域として北広島町、安芸太田町、尾道市を加えた5地域で行った。 10プロジェクトの概要(テーマ/地域/内容/専攻)は以下のとおりであり、プロジェクト全体を通して、作品の制作・展示、交流等に参加した住民の数は3,258人となった。 ①宮島双六プロジェクト/廿日市市/板目木版を用いた新デザインの観光双六制作/油絵専攻 ②宮島ものづくり産業復興プロジェクト/同上/後継者不足の宮島ろくろの技術習得など/漆造形 ③宮島染織プロジェクト/同上/宮島に平和の明かりをともす染織造形の制作/染織造形 ④基町プロジェクト/広島市/高齢化した都心の住宅団地の活性化、コミュニティデザイン/共同(広島修道大学、安田女子大学と協働) ⑤観光客に伝えたい広島/同上/新しいイメージの広島のビジュアルイメージを伝える/視覚造形 ⑥広島ピースプロジェクト/同上/NHK 広島放送局と協働し「ヒバクシャからの手紙」の映像を制作/映像メディア造形 ⑦筏津プロジェクト/北広島町/筏津芸術村に滞在し現地の素材で立体作品制作/彫刻・立体造形 ⑧たたらプロジェクト/安芸太田町/たたら製鉄文化を学習し鉄の作品を制作/金属造形 ⑨尾道プロジェクト/尾道市/アートによる空き家再生/現代表現(尾道市立大学と協働) ⑩日本画風景プロジェクト/同上/尾道の風景をテーマに街の魅力を伝える/日本画専攻  芸術学部をあげた取組として、実施地域を積極的に拡大し、地域との連携や協力により活動を進め、一般参加者も多く集めたことから、「a」と評価した。	

	⑫	<p><b>【参加校による協働研究事業】</b></p> <p>4月～3月 参加校による協働研究事業を平成28年度に引き続いて実施する。</p>	b	<p>参加校8校が、学部構成や教育方針などそれぞれの強みを活かしながら、COC+の対象地域において観光調査研究、住民講座、地域交流・支援活動等を行い、多くの学生を地域活動に向かわせる事業を展開した。</p> <p>平成29年度の実施状況は以下のとおり（校名/地域/テーマ/実施形態）。</p> <p>①広島大学/廿日市市/世界遺産宮島を構成する弥山原始林の価値を確認し、歴史的・文化的資源と一体となった保全・活用を考える/調査研究</p> <p>②尾道市立大学/尾道市/アートプロジェクト（空き家再生）の実施/地域デザイン（広島市立大学と協働）</p> <p>③広島経済大学/廿日市市・上関町等/学生による観光資源等の再発見と発信/調査研究</p> <p>④広島工業大学/廿日市市/宮島土曜講座/市民向け講座</p> <p>⑤広島国際大学/安芸太田町・呉市/中山間地域と島しょ部との交流による地域活性化プロジェクト/地域支援</p> <p>⑥広島修道大学/広島市/基町プロジェクト「もとまちカフェ」/地域交流（広島市立大学と協働）</p> <p>⑦安田女子大学/同上/基町プロジェクト「グローバルキッチンプロジェクト」/食文化交流（広島市立大学と協働）</p> <p>⑧広島商船高等専門学校/大崎上島町/高齢者健康調査/地域支援</p> <p>計画どおり実施したことから、「b」と評価した。</p>	
	⑬	<p><b>【参加校との新たな協働事業の実施】</b></p> <p>12月 新たに観光に関する学生の研究・活動発表会を実施する。</p>	a	<p>学生の観光に関する学習・研究意欲を高め、地域を志向するマインドやネットワークの醸成を図るため、本学が企画し、COC+の参加6大学と比治山大学（協力校）が合同で実施した。観光に関連する学生の研究や活動に関する広島地域での初めての大学間交流事業となった。開催は平成29年の12月16日と17日の2日間、廿日市市の広島経済大学の宮島セミナーハウス成風館を会場とし、参加した学生は65名、教員は24名であった。</p> <p>発表されたテーマは14。大学ごとにテーマ設定や地域への関わり方、分析や考察の方法に特徴があり、多彩なプレゼンテーションが行われた。併せて宮島の景観保存の歩みなどの現地講座を開催した。参加学生のアンケートとして、94%が「他大学との交流により学習・研究上の刺激を受けた」、91%が「広島地域の関心を高めた」と回答した。</p> <p>観光をテーマに、充実した教育研究交流が実施できたことから、「a」と評価した。</p>	
	⑭	<p><b>【サテライト講座の実施】</b></p> <p>9月～12月 新たに参加自治体と協働してサテライト講座（市民向け公開講座）を実施する。</p>	b	<p>事業協働地域の若い世代の人口流出を防ぎ、地元への定着をいかに図るかが課題となっている。その対策の一つとして、高校生の地元大学への関心を高めるための事業を行うことで、地域内への進学を示し、ひいては地域内での就職につながるものとして企画し実施した。</p> <p>対象は柳井市広域圏の7校の高校生。講座は平成29年10月14日・21日・28日の3回実施。内容は、広島市立大学の教員による「情報科学とサウンドデザイン」、「統計学を知る意味」、「芸術による新しいまちづくり」。高校生・教員32名の参加があった</p> <p>併せて、広島地域の各大学の学部等の紹介を行い、地域内進学を促した。</p> <p>計画どおり実施したことから、「b」と評価した。</p>	

H29 年度実施計画		公立大学法人広島市立大学の自己評価		外部評価委員会の評価
		記号	評価理由等	記号 (SABCD)
取組4 事業運営 (実施体制の整備等)	⑮	<b>【ニュースレターとホームページによる広報】</b>  7月・12月・3月 事業広報のためニュースレターを発行する(3回)。 4~3月 平成27年度に開設したホームページを更新する。	b  ニュースレターの発行については、平成29年8月に第6号(地域課題演習、アートプロジェクトの紹介等)、平成30年1月に第7号(観光をテーマに大学合同の発表会開催等)、平成30年3月に第8号(観光関連データベース等)をA4版4ページで印刷し配布した(各3000部)。 新たに、事業活動紹介パンフレット「地域に目覚める一地域に貢献する人材の育成」を5,000部印刷し配布した。また各事業の実施にあたりチラシやポスターなどの印刷物を作成した。 COC+ホームページを随時更新し情報提供に努め、平成29年度の総閲覧数は1万7609件であった。  計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	取組4 ⑮~⑲について                     <b>B</b> <b>(3.5)</b>
	⑯	<b>【協働協議会の開催】</b>  1月 COC+事業協働地域協議会を開催(1回)する。	b  事業協働協議会の会議を平成30年1月29日に、広島市総合福祉センターにおいて開催した。協議内容は、平成29年度事業の実施状況、平成30年度の事業計画案、平成28年度の外部評価結果の報告であり、事業の進捗状況と今後の展開等について情報を共有し意見の交換を行った。参加は31の協働機関から48名(平成28年度は37の協働機関から65名)であった。 事業協働機関に新たに一般社団法人しまなみジャパンが加わり、「しまなみ観光サイクリストの行動情報収集」を行った。協働機関の総数は67機関となったこと、事業の一部を協力する大学として、比治山大学が参加し、現代文化学部の学生・教員が「大学連携による学生の観光研究・活動発表会」において協働したことを報告した。  計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	
	⑰	<b>【COC+フォーラムの開催】</b>  1月 参加校・企業・自治体に呼びかけCOC+フォーラムを開催する(1回)。	b  「COC+フォーラム2018」を平成30年1月29日に、広島市総合福祉センターホールにおいて開催し、一般を含めた90名の参加があった(平成28年度は174名)。 内容は「関係人口をつくる一定住でも交流でもないローカルイノベーション」(講師はローカルジャーナリスト田中輝美氏)、COC+の事業報告として本学社会連携センター教員による「COC+アートプロジェクト2016-2017」及び「観光関連データベースの構築と活用について」。  計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	
	⑱	<b>【担当する教員等の雇用】</b>  4月~3月 事業の調整、実施、進行管理にあたるCOC+を担当する教員6名を継続雇用する。	b  平成28年度に引き続いて、COC+推進コーディネーター(特任教授)1名、教育研究担当特任教授1名、事業協働地域調整担当特任准教授1名、教育研究担当特任助教1名、観光関連データベース担当特任助教1名、アートプロジェクト担当特任助教1名を雇用し、全体で6名の体制で事業を推進した  計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	

	⑬	<p><b>【評価委員会による評価の実施】</b></p> <p>6月 COC+評価外部委員会を開催し、平成28年度事業の評価と評価報告書を作成</p>	b	<p>COC+外部評価委員会を平成29年7月5日に開催し（神戸市外国語大学名誉教授・船山仲他委員長ほか委員4名が出席）、平成28年度事業の実施状況について、「A 計画を上回った実績を挙げている」との評価を受けた。</p> <p>また、平成28年度の事業報告書を作成し、外部評価委員会に提出した。</p> <p>ほぼ計画どおり実施したことから、「b」と評価した。</p>	
--	---	--	---	--	--